

暦の上では立秋を過ぎたというのに、これからが本番とばかりに毎日厳しい暑さが続いています。さてこの季節、公園や雑木林を歩いていると、地面の上に不自然な形で落ちている枝を見ることがあります。今回はこれを観察し、小さな手がかりから枝を落とした犯人さがしをしてみましょう。

◆落ち葉の季節でもないのに…

夏真っ盛りの頃、クヌギやコナラなどドングリのなる木の下を歩くと、なぜか数枚の葉っぱをつけた枝がいくつも落ちていることがあります。落ち葉の季節には早すぎるし、枝ごと落ちているのはちょっと不自然です。その枝をひろってみると、切り口はきれいで、人間がちぎったものではないことがわかります。さらによく見ていくと、落ちている枝に共通点があることがわかります。それは、枝に若いドングリがついているということです。



◆ドングリにあいている小さな穴

ドングリに何かヒミツがあるかもしれないと、今度はドングリをじっくり見回します。すると、もう一つの共通点がありました。ドングリには必ず、直径1ミリに満たないような穴が空いています。さては、誰かがドングリに穴を開けて、中に何かを隠したはず。それにしても、若いとはいえ、ドングリの殻はとてもかたいもの。こんなにきれいな穴をあけて、しかもそのドングリを枝ごと落としてしまうとは、いったい誰がどんな目的でやっているのでしょうか。



◆ドングリをゆりかごにするムシーハイイロチョッキリ

中に何が隠されているのか、どうしても気になります。そこで、カッターで慎重に割ってみました。するとそこには、小さな光るものが…。そう、これは、ハイイロチョッキリというゾウムシのなかまの卵だったのです。長い口を持ったハイイロチョッキリのメスは、口をドリルのように使ってドングリに穴をあけ、中に卵を産み付けます。その後、メスはドングリのついた枝ごと切り落とします。ドングリの中でふ化し、中身を食べて成長した幼虫は、やがて自分で内側から穴をあけて外に出ます。すぐに地面に潜ってさなぎになるため、お母さんのハイイロチョッキリは、わざわざドングリを地面に落としたのでしょう。枝ごと落ちているドングリは、ドングリをゆりかごにするためのハイイロチョッキリのしわざだったのです。



次回のお知らせ

ミニ観察会：9月3日（土）11時から
お気軽にご参加ください。



ハイイロチョッキリ（成虫）